

第3章

家庭学習の充実に向けた取組

第3章 家庭学習の充実に向けた取組

家庭学習は「学び」という大きな枠の中で学校教育と深く結び付いています。教室を離れて、授業で学習したことの定着を実感したり、新たな知識や技能を獲得したり、身近な生活・地域・社会等で活用したり関連付けたりすることで、「学び」そのものの楽しさや意義を感じることができます。「やらされる」学習から「やりたい」と思える学習へ変えていきましょう。家庭学習を充実させ、主体的に学ぶ児童生徒を育成しましょう。

1 家庭学習の意義

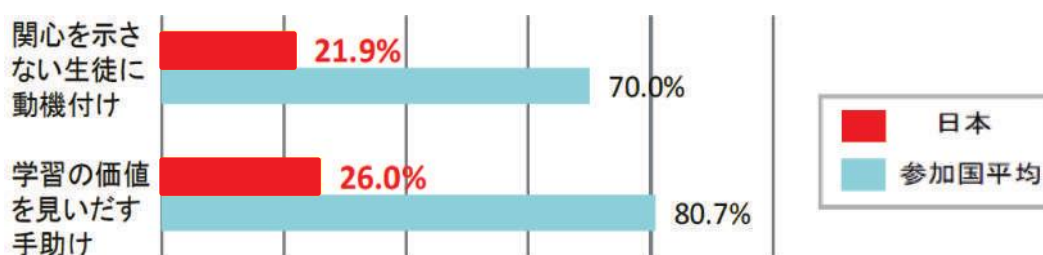
課題の提出状況だけを見て評価につなげたり、同じ漢字や計算式を羅列しただけのノートに対して指導しないままにしたりしていないでしょうか。「宿題」「予習・復習」「自主学習」等、内容や呼称に明確な線引きはありませんが、何のためにその家庭学習をするのか、その意義をまず教師が理解しておかなければなりません。またその際、学年の実態や個々の特性を考慮する必要があります。

(1) 家庭学習の意義〈例〉

- 学習習慣（自己管理能力）を身に付け、自ら学びに向かう姿を育てる。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着や、応用力・活用力の育成を図る。
- 自分で目標や課題を見つけ、解決していく力を身に付けさせる。
- 家庭生活・地域・社会に興味・関心を持ち、学習とつなげる。
- 読書や図書館に親しむ姿を育てる。

〈参考〉主体的な学びの引き出しに自信を持つ教員の割合

～OECD国際教員指導環境調査より（2013）～



国際的なアンケートにおいて、日本の教員は、主体的な学びを引き出すことに対して自信を持っている割合が低い、という結果が出ています。学習指導要領が目指す教育の推進に向けて、主体的な学びが引き出せるように、教員自身が学習の意義や価値について考えを整理したり、話し合ったりすることが求められています。家庭学習でも同様に、児童生徒の主体性を育てていきましょう。

OECD 国際教員指導環境調査とは、学校の学習環境と教員の勤務環境に焦点を当てた国際調査。2013年に実施された第2回調査には日本を含む34か国・地域が参加。日本は中学校約200校の校長、教員（非正規含む）を対象にアンケート調査。（国公立90%、私立10%）

(2) 家庭学習で目指す児童生徒の姿〈例〉

低学年	中学年	高学年	中学校
<p>○基本的な生活習慣を身に付けて、毎日、家庭学習に向かうことができる。</p> <p>○丁寧に宿題に取り組み、やりきることができる。</p> <p>○調べることを楽しんでいる。</p> <p>○お手伝いをしたり、地域の行事等に参加したりして、様々な体験をしている。</p> <p>○読書を楽しんでいる。</p>	<p>○毎日、自分から家庭学習に向かうことができる。</p> <p>○宿題と共に、授業の予習や復習に取り組むことができる。</p> <p>○興味・関心に応じて具体的な課題を自分で決めることができる。</p> <p>○辞典や図鑑、資料集、地図帳などを使って自分で調べることができる。</p> <p>○ジャンルを広げて読書に親しんでいる。</p>	<p>○自分で計画を立てて家庭学習に向かうことができる。</p> <p>○宿題や予習・復習だけでなく、自分で課題を見つけて、調べたりまとめたりすることができる。</p> <p>○目的を把握し、適切な学習課題を決めることができる。</p> <p>○家庭科等で学んだことを生活の中で活用することができる。</p> <p>○読書や新聞・図書館等の活用を通して、興味・関心を広げたり、課題を解決したりしている。</p>	<p>○夢や目標に向かって、計画的に家庭学習に向かうことができる。</p> <p>○宿題や予習・復習だけでなく、自分で課題を見つけて、調べたりまとめたりすることができる。</p> <p>○学習課題を解決するための適切な資料や収集方法について考え、具体的な学習課題を立てることができる。</p> <p>○地域・社会・世界に興味を持ち、学習したことを関連付けたり、活用したりしている。</p>
<p>家庭学習をやりきるためには、大人（教師や家族）の関わりが欠かせません。基本的な読み書きはもちろん、鉛筆の持ち方や姿勢にも丁寧な指導が必要です。成功体験を多く持たせるとともに、たくさんほめて自信を持たせましょう。</p>	<p>好奇心旺盛で、自立心が芽生えてくる時期です。社会科・理科・総合的な学習の時間・外国語活動が始まります。学習習慣を身に付けたり、自主学習に取り組んだりするなど、少しずつ自分でできることを増やすようにしていきましょう。</p>	<p>論理的内容や抽象的な内容の学習が増えます。家庭科や外国語科も加わり、得意教科や苦手教科に差が出る時期です。教師や家族との関係性によって学習意欲も大きく左右するので、しっかりと対話しながら指導しましょう。中学校での学習もイメージしておく必要があります。</p>	<p>教科担任制になり宿題や自主学習の在り方が大きく変わることを、まず教師自身が自覚しましょう。家庭学習について一から再確認する丁寧な指導が必要です。テストや高校入試が目的になりがちですが、その後の生き方や学び方にも目を向けることができるようにすることが重要です。</p>

2 家庭学習の指導

(1) 目的の明確化

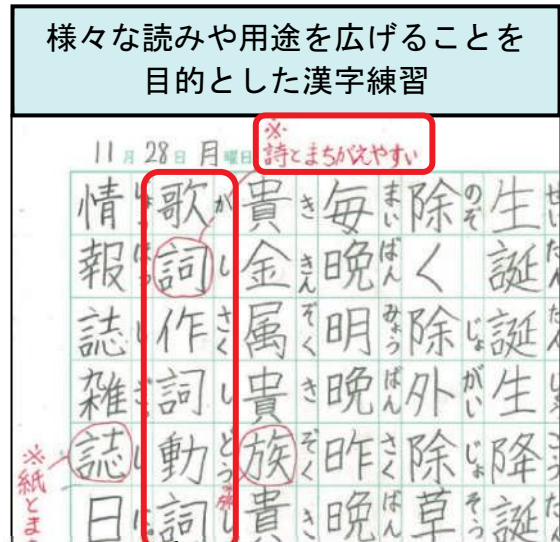
「家庭学習の意義」と照らし合わせ、何のために宿題や自主学習に取り組むのか、それを通してどのような力が付くのか等、目的を明確にして児童生徒に伝えることが大切です。また、その目的を達成するのに適した内容や方法についても検討する必要があります。児童生徒が目的を達成した際は、しっかりとほめて自信を持たせましょう。

実践例 小学校「目的に応じた漢字練習」

漢字練習にも様々な目的があり、それに応じて学習方法を変えていく必要があります。例えば、同じ「詞」という漢字の学習について、目的に応じて以下のように指導することが大切です。

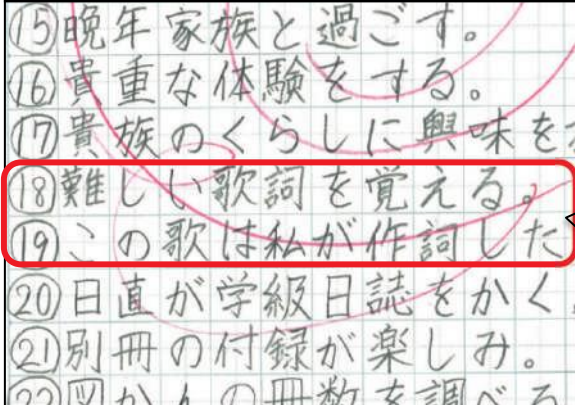


とめ・はらい・はねや点画の形・長さ等を丁寧に書き写したり、正しい筆順で書いたりすることを意識するよう指導します。



様々な熟語を練習することで用途を広げることができます。特に、同じ音訓を持つ漢字や、形が似ている漢字は間違えやすいので、意識的に注釈を加えさせる等、工夫して指導します。

短文の中で使うことを目的とした漢字練習



熟語だけではなく、短文の中でどのように使われるかを意識して課題を設定します。練習できる熟語の数は限られますが、既習の漢字と共にチェックすることができます。

(2) 取組方法や内容の具体的な指導

目的を明確にしたら、取組方法や内容を具体的に示して丁寧に指導しましょう。特に自主学習については、「何をしてもよい」と全てを児童生徒に任せるのではなく、学年の発達段階や個々の特性を見極めながら、進め方について指導することが必要です。最初は授業の予習・復習から始めて、徐々に興味・関心のあるテーマにつながるなど、「自ら学ぶ力」を育むために、小学校の低学年から計画的に取り組むことが重要です。

実践例 **小学校**「自主学習の具体的な手立てを示したプリント」

自主学習スタート！！



自主学習の約束

- ① 特別な事情のある日以外は毎日する。
- ② はじめに、今日の日付(〇月〇日)と、開始時刻(〇時〇分～)を書く。終わったら、終了時刻(〇時〇分)も書く。
- ③ ノートの右上に回数をつける。(No. 1 No. 2)
- ④ ページ数は問わないが、時間は30分を目安にする。
- ⑤ 字や絵や色ぬりははていねいにする。線は定規で引く。
- ⑥ 内容は、下の表を参考に。もちろん自分で考えたメニューをしてもよい。
- ⑦ 漢字・計算練習も自主学習ノートにする。ただし、塾の宿題などをする場合は、例のように自主学習ノートに記入する。
- ⑧ 「読書」は自主学習にはふくめない。ただし、読書感想文や本の紹介文、作者についての調べ学習などは、自主学習ノートに書いてもよい。
- ⑨ 自主学習ノートは毎日提出し、先生の印をもらって持ち帰る。

取組の手順や方法を明示することで、取りかかりやすくします。

自学メニュー

- ・ まちがえやすい漢字ベスト10
- ・ 部首調べ・同じ部首をもつ漢字調べ
- ・ 百人一首、ことわざ、慣用句調べ
- ・ まる写し(教科書の図や絵、文章をそのまま写す)
- ・ 算数の文章問題づくり(式と答えも)
- ・ 計算ドリルで計算練習
- ・ 今日の〇〇の授業で分かったこと、感想
- ・ 今日の〇〇の授業の復習
- ・ 今日心に残った先生の話、友だちの話
- ・ 辞書や辞典や地図帳、新聞やパソコンなどを使った調べ学習
- ・ 理科・社会についての新聞づくり
- ・ 都道府県の特ちょう(産業、観光名所など)
- ・ 昆虫、植物、動物についての特集
- ・ 地球かんきょうについての調査
- ・ 〇〇が上達する方法(足が速くなる、リコーダーが上手くなるなど)
- ・ 食べ物にふくまれている栄養調べ
- ・ 本を読んだ感想
- ・ おすすめの本の紹介
- ・ みんなにやさしい工夫調べ(バリアフリー、ユニバーサルデザインなど)
- ・ むかしと今のちがいをくらべて気がついたこと
- ・ いろいろなもののリサイクルについて
- ・ 算数の単位(1m=100cm 1km=1000mなど)調べ



具体例を明示して、何をしてもよいか困っている児童生徒へのヒントとします。

実践例 小学校「自主学習のノート」

1/9 ④ 江戸時代のエコ社会について調べよう。

調べた理由
 社会の授業で、江戸時代の日本は、使えるものは何でも使うエコ社会だったということを学習したので、どんなふうに住んでいたのか知りたかったからです。

綿花 → 着物・浴衣 (古着屋がたぐさんある) → 寝巻・下着 → おみつ → 雑巾 → 燃料 → 灰 → 肥料 → 綿花

布がやわらかくなり肌ざわりがよくなる
 さらにやわらかくなる
 きれいに洗う

布は貴重品 (100)

天然素材なので灰も使える

なぜそんなに物を大切にしていたの??
 江戸時代は鎖国をしていたので、国内の限りある資源を大切にするしかなかった。

鎖国が終わり、明治時代は、エコ社会じゃないの??

④ 江戸時代は、1枚の布の灰まで利用するムダのないエコ社会でした。布以外でも、箱わらや紙なども徹底的に使い回されていたそうです。

⑤ 今でもできそうなりサイクルのヒントがありました。次は明治時代を調べたいです。

「めあて」だけではなく、「調べた理由」も加えることで動機をはっきり意識することができます。

色ペンやイラストなどの工夫を加えることで、ノートが構造化され、見やすくなります。

新たな疑問がわくと次の学びにもつながります。

授業と同様に「まとめ・振り返り」をして学習内容の定着を図りましょう。

(3) 学習内容の理解・定着に向けた家庭学習指導

学習内容の定着には復習が重要です。授業における児童生徒のつまずきを捉えて、具体的な内容を提示しましょう。次時に向けて必要と思われる既習事項の定着をあらかじめ確認（レディネス・チェック）し、過去に遡って復習するよう促すことも、授業の理解に有効です。

〈実践例〉 中学校「小学校の学習内容を家庭学習で振り返り、授業に生かす」

ここを家庭学習で確認

小4算数 ひし形

ひし形は線対称な図形で、2本の対角線は、それぞれ対象の軸になっている。

基礎となる既習事項をあらかじめ確認し、計画的に家庭学習で取り組むよう指導することで、授業の理解をより深めることができます。

授業で生かす

中1数学 垂直二等分線

左の既習事項から、ひし形の1つの対角線は、もう1つの対角線の垂直二等分線になる。このことを使うと、線分ABの垂直二等分線は、下のようにして作図することができる。

①線分の両端の点A、Bを、それぞれ中心として、等しい半径の円を描き、この2つの円の交点をP、Qとする。

②直線PQを引く。

(4) 自分で課題を見つける機会の確保

自分で課題を見つけ学び続ける児童生徒を育てるためには、自分の興味のあることや追究したいことを家庭や図書館等で調べたり、まとめたりする体験がポイントになります。授業で学習したことを家庭生活や地域の行事等で活用したり、関連付けたりすることも有効です。児童生徒の興味・関心を広げるために、教室環境や校内環境、学校図書館環境を整えたり、工夫したりすることも大切です。

実践例 小学校 中学校 「校内環境の工夫」



国語の教科書に掲載されている様々なジャンルの図書を集めたコーナーです。図書紹介の授業と関連させることで興味・関心を広げます。



夏休み前の特設コーナーでは、自由研究の他、料理やお菓子づくりなど、家庭でしかできない学習や活動に関連した図書を紹介しています。



新聞コーナーを図書館だけではなく廊下にも設けることで、児童生徒の目に触れやすくなります。2社以上の新聞を見比べるような工夫も考えられます。



委員会の活動で、新聞の中から地域の記事を取り上げてスクラップしたものをためています。

(5) 家庭学習の成果の共有

児童生徒のノートを手本として掲示したり、授業の中で資料として扱ったり、学級通信で紹介したりするなど、よい内容を教師と児童生徒が共有できるように工夫することが大切です。

実践例 小学校 中学校 「自主学習ノートの見本の掲示」



日・週替わりの掲示



教科ごとの掲示

(6) 点検・評価の工夫

家庭学習の習慣は、自然に身に付くものではなく、教師や保護者の適切な指導・支援のもとで、徐々に身に付いていくものです。提出されたノートには必ず目を通し、早めに返却するようにしましょう。その際、評価の言葉を記入し、努力を認めることで、児童生徒のやる気を喚起することができます。また、点検や評価をすることで、一人一人の習熟度を把握し、日々の授業につなげることが大切です。

一方で、課題ができなかったり、提出できなかったりした児童生徒に対しては、丁寧に理由を聞く等の配慮も必要です。

実践例 **小学校** **中学校** 「点検の工夫」

○ノートを2冊用意

家庭学習ノートを早く返却したいけれども、点検の時間がとれない時や、放課後にじっくりと時間をかけて点検したい時に有効です。

○一言メッセージ

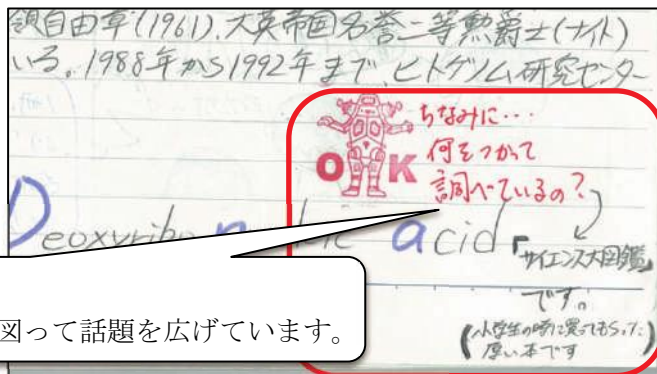
検印やサインだけではなく、「例えば?」「具体的に」など一言メッセージを加えたり、ひらがなのままの箇所を既習の漢字に修正させたりすることで、児童生徒に新たな思考を促したり、既習事項を定着させたりすることができます。

○付箋の活用

ノート提出の際、しおり代わりにとなる付箋を児童生徒が貼っておくことで点検がスムーズになります。その際、付箋に見どころ等を一言書くようにするだけでも意欲喚起につながります。

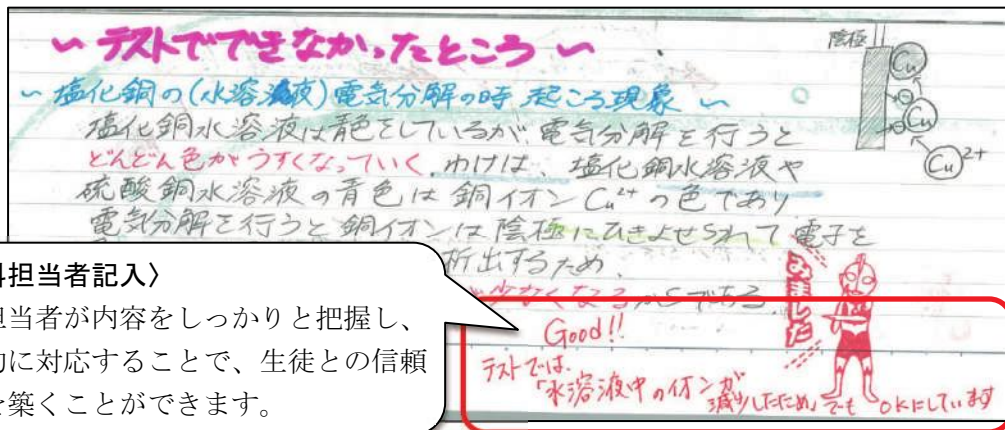
実践例 **中学校** 「自主学習に対するコメント」

提出された自主学習ノートに対してのコメントやアドバイスを、担任自身が記入したり、教科担当者に振り分けて記入したりしています。



〈担任記入〉

児童生徒とコミュニケーションを図って話題を広げています。



〈教科担当者記入〉

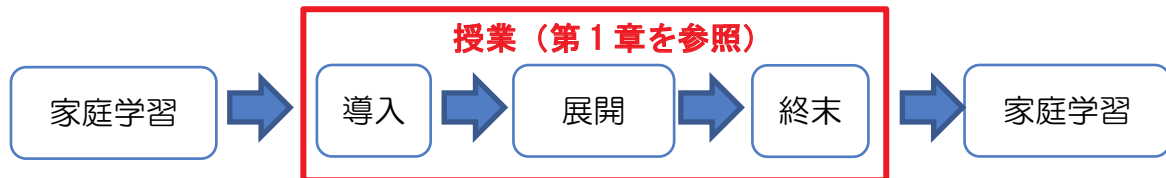
教科担当者が内容をしっかりと把握し、専門的に対応することで、生徒との信頼関係を築くことができます。

3 家庭学習とつながる授業づくり

家庭学習では、授業で使用した教科書やノートを活用できるようにすることが大切です。そのために「めあて－まとめ・振り返り」を明確にした、学びの道筋が分かる「板書」を心がけ、学習内容を確実にノートにまとめることができるようにしましょう。また、次の授業に向けて何を予習すべきなのか、授業の終末を受けて何を復習すべきなのか、という観点を授業づくりに生かすことも考えられます。

(1) 家庭学習とつながる導入・終末

児童生徒が家庭で学習してきた内容を、導入段階で取り上げ、家庭学習と本時のつながりを意識できるようにしましょう。また、終末では、まとめ・振り返りをもとに家庭学習を設定しましょう。教科書、ドリル、問題集等で類題を設定したり、新たな疑問を解決する内容を設定したりすることが考えられます。また、そのためには、授業のゴールイメージ（＝身に付けさせるべき力）を明確化することが重要です。



実践例 小学校 中学校 「家庭学習とつながる授業づくりの工夫」

〈導入〉

- ・前時の復習や、本時のための予習を活用して、本時のめあてを児童生徒から引き出す。
- ・家庭学習内容の定着度を確認するために小テストを行う。

〈板書〉

- ・1時間の授業でどんな学習をしたかが分かるような板書計画を立て、「めあて－まとめ・振り返り」や学びの過程が分かる板書を心掛けることで、家庭学習を支える授業ノートにつなげる。

〈ノート〉

- ・1時間の授業で、何を学んだのか、どのように学んだのかを振り返ることのできるノートにすることで、家庭学習に活用しやすくなる。

〈終末の工夫例〉

- ・学習内容の再確認や定着を図る家庭学習の方法を具体的に紹介する。
- ・つまづきのあった児童生徒に個別の課題を指示する。
- ・これからの学習の基礎となる既習事項を確認し、家庭学習を促す。

4 自己管理能力の育成

生涯を通じて楽しみながら学び続ける児童生徒を育てるためには、家庭生活に戻った時でも、目標に向かって自己管理し学習に向かうことができる力が必要です。一人一人の学習に対する意義や学習環境に対する思いに耳を傾けたり、学級で話し合う場をつくったりして、全ての児童生徒のやる気につなげていきましょう。また、基本的な生活習慣の定着も大切です。自らの生活を見つめ、改善していけるよう、家庭・地域との連携・協力を図りましょう。

(1) PDCAサイクルでの育成

長期目標 将来や卒業後の夢	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や道徳等で夢や目標について語り合う場を設定しましょう。発達段階や個々の状況に合わせて教師が児童生徒の思いを引き出しましょう。
短期目標 学期や月ごとの目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が達成感を味わえるよう、スモールステップで計画することがポイントです。「学習目標」「生活目標」等、具体的になるような工夫をしましょう。 掲示や通信で可視化しましょう。
P (Plan) 学習計画 いつ、どこで、何に、どのくらい、取り組むのか。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や塾・習い事等を考慮しながら、短期目標を達成するための、1週間のサイクルや1日の生活予定を立てる場面を設定しましょう。 連絡帳・学習計画表・テスト計画表等を活用することで、計画が児童生徒の身近なものとなります。 児童生徒が、自分の長所・短所を捉えた上で計画を立てられるよう指導することがポイントです。
D (Do) 実践	<ul style="list-style-type: none"> 低学年の児童や基本的な生活習慣が定着していない児童生徒には日々の声かけが大切です。 「できた」という経験とともに「できなかった」ことを意識させるためにも、記録の習慣づけが重要です。 家庭学習の意義を確認しながら指導しましょう。
C (Check) 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> これまで行ってきた計画・実践の在り方を振り返り、記録をもとにしながら、成果と課題を整理する場を設定しましょう。原因や理由に目を向けて改善につなげるように指導することが大切です。
A (Action) 改善	<ul style="list-style-type: none"> 評価をもとにして改善計画を立てる場を設定しましょう。学級やグループで話し合ったり、最初の学習計画に改善を加えたりして工夫しましょう。

(2) 授業や学級での育成

「何のために勉強しなければならないのか」「なぜ家庭学習は必要なのか」等、児童生徒はそれぞれに、学習に対しての疑問や思いを持っています。話し合い等とおして、様々な意見を聞くことで、学習の意義を客観的に捉えたり、深く考えたりすることができます。また、自主学習ノートの書き方や家庭学習の仕方の情報交換をすることは、PDCAサイクルに新たな取組を加えることにもつながります。学級活動や朝の会・終わりの会等で自発的に家庭学習に向かう集団を育てましょう。

<参考> 自己管理能力の育成に関連した授業例


○中学校 道徳 「望ましい生活習慣」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

●自分の生活習慣をチェックしてみよう。

自己チェックは達成度を%で示してみよう

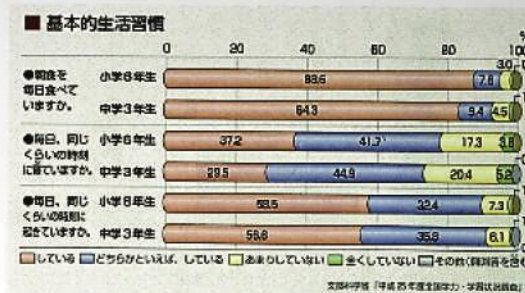
チェックリスト	自己チェック	コメント
自分の決めた時刻に起床する	%	
朝食をしっかりと食べる	%	
身の回りの整理整頓に気を配る	%	
時間を大切に	%	
会話の無駄遣いをしない	%	
身の安全に気を配る	%	
物を大切に	%	
自分の決めた時刻に就寝する	%	
	%	
	%	

●自分の生活のスローガン



自分で生活をコントロールする

■ 基本的な生活習慣



これまで、自分の生活習慣は主に家族や学校、周囲の大人たちに支えられてきた。中学生になって、部活動や習い事、勉強の時間も増え、趣味に費やす時間も必要になって一日の時間が足りないと思うことも多い。これからの人生、自分で自分の生活をコントロールするためにはどうしていけばよいだろう。

●大切にしている生活習慣

●改善したい生活習慣

○中学校 学級活動 「自分に合った学習方法を考えよう」 (出典「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」国立教育政策研究所)

事例 2 自分に合った学習方法を考えよう (学級活動(3)イ)

学級活動(2)「道徳と成長及び健康安全」や学級活動(3)「学級と道徳」では、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容など生徒自身が決定するための話し合い活動が大切にされています。



「勉強する意味が湧かない…」
「家庭学習で、何をどう勉強したらいいかわからない…」

このような現状がありませんか？

- 学級内で生徒同士が学び合う雰囲気を感じない。
- 学習意欲が高い生徒と低い生徒の二極化が見られる。
- 家庭学習の習慣化が図られていない。

学習意欲の向上 学習方法について互いに意見交換を行いながら、生徒一人一人が自分に合った学習方法を考え、学習意欲を高め、その後の学習方法に生かしましょう。

1 事前の指導と生徒の活動

【課題の明確化(題材の決定)】

- アンケートを実施して生徒の実態を把握します。

【活動テーマ等の決定】

- アンケート調査の集計を行い、活動テーマを設定します。【放課後 学級活動委員会】

【計画の作成・開始の意思決定】

- 学級活動反省会を実施して、学級活動の計画を立てます。
- ▶学級活動の流れを検討します。【放課後 学級活動委員会】
- ▶バリエーションの授業内容等について検討します。【放課後 学級活動委員会】

●本時の予告をし、テーマへの意欲付けを行います。【毎りの会 学級全体】

2 本時の活動(個人として問題解決の方法を決める話し合い活動)

【問題意識の共有】

- 学級全体で問題意識の共有を行います。
- ▶アンケート調査結果の発表

【問題解決に向けた話し合い活動(学級全体→小グループ)】

- 集団思考を深める話し合いの工夫を行います。
- ▶バリエーションを用いた話し合い
- ▶小グループによる話し合い

【自己決定】

- 各自が行う方法の決定

3 事後の指導と生徒の活動

【実践・振り返り】

- 実践と振り返りを大切にします。
- ▶毎日の朝の会で各自が自分で決めた学習方法を確実に実践しているかどうか、自己評価カードに記入させましょう。
- ▶生徒の取組の様子を学級通信などを使って保護者へ伝え、ともに家庭学習の充実について家庭の協力を呼びかけます。
- ▶経験者の学習計画に相談付けて実践させましょう。
- ▶活動過程と成果について、振り返らせましょう。

【次の活動へ】

- 年間指導計画に沿って、次の活動につなげます。
- ▶生徒が自分のよさに気付かせ、伸ばそうという意欲をもてるように「自分のよさの発見」に関連した学習機会(選択)等の題材を決定し、学級活動を行います。

TOPICS 「生徒指導の推進」/「学習意欲の向上」/「自己肯定部の醸成」に効果

教師一人ではなかなか実現できない、思いがけない効果を生み出す。小グループでの話し合い(小グループ)での話し合いが、中核的な活動として進められています。話し合いによって生徒のよさや考えが明らかになり、学習意欲が向上しています。話し合いによって生徒のよさの発見、思いがけない効果を生み出す。話し合いによって生徒のよさの発見、思いがけない効果を生み出す。話し合いによって生徒のよさの発見、思いがけない効果を生み出す。

POINT 本実践における評価のポイント

- 共通の課題について、自分自身の意思として受け止め、関心をもって話し合い活動に取り組んでいるかどうかについて確認します。
- 多様な意見を聞き、考え、判断し、自分で決めたことについて、実践できているかどうかについて確認します。

(3) 家庭・地域との連携

学校や市町村が作成した「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習に関する情報を積極的に発信していきましょう。特に、小学校低学年は保護者の援助が欠かせません。鉛筆の正しい持ち方や字を丁寧に書くポイントなど、目指す姿を具体的に伝えていきましょう。また、家庭での手伝いや、公民館・地域行事への参加を通して、学校での学習を深めたり、広げたりしていきましょう。

実践例 **小学校** **中学校** 「家庭学習の手引き」

小学校 3年生

学習時間のめやす
3年生×10分+15分

45分

家庭学習のポイント

規則正しい生活の再確認と見直しを!
～子どもは自分で決めたルールを守る～

ポイント1
時間を意識し、はじめをつぶさることは、自主心や学習への集中力を高めることにつながります。特に、テレビやゲームなどの娯楽も、意識して含めながらルールを決めて、自分で守るようにすることが大切です。

ポイント2
他の子どもとは比べないで～
～わが子の強みを知ることから～
学習習慣が広がることが、個人差が広がる時期です。友だちや兄弟・姉妹などと比べることは避け、がんばった成果に対しては心から称賛しましょう。小さな変化やがんばりを認められることで、子どもは自信を持ちます。

ポイント3
宿題以外の学習にも挑戦させましょう!
～わが子の強みを知ることから～
学校の学習内容はもちろん、自分の得意な分野や興味のある分野にも目を向け、別の方法を試したり調べたりするなどして、自主的な学習にも積極的に取り組み、自学ノートの習得などを参考に家庭学習のレベルアップを図っていきましょう。

自学ノート番付

国語 算数 社会 理科

児童生徒の発達段階や家庭の関わり方についても発信しているので、連携の指針とすることができます。

家庭学習の内容と方法

国語

- ことばや文のいみを考えながら、「声の大きさ」「声の高さ」「読む速さ」に気をつけて、音読を毎日がんばろう。
- かん字は、教科書やかん字ドリルを手本にして、「ため」「はね」「はらい」「つじゅん」に気をつけて、かん字ノートにくりかえし練習しよう。
- 意味のわからない言葉があるときは、国辞書で調べよう。調べた言葉に、しるしやふせんをつけるなど工夫をしよう。
- 部首や慣用句の意味について、教科書を見てノートにまとめよう。
- 学習したかん字や語句を使い、日記を書こう。
- ローマ字について、教科書を読んだりノートに書いて練習しよう。

社会

- 絵や写真、地図、グラフにも気をつけて、教科書をくりかえし読もう。
- 教科書に出てくる「給地図」や「公共しせつ」などの大切な言葉を、ノートに書き出しておぼえよう。
- 地図記号や方位は教科書や地図を見て、ノートに書いておぼえよう。
- 授業中に先生が「〇〇についてお家に聞いてきましょう」などと言われたときは、進んで調べよう。

算数

- 筆算やあまりのあるわり算などの計算は、目標の時間をきめて、時間内にできるようにくりかえしノートにしよう。
- 家庭学習用のノートに、自分で問題を作ってといてみよう。
- 図形の学習は、三角定規やコンパスなどの用具を使って、ていねいにしよう。

理科

- 絵や写真、表、グラフ
- 教科書の「まとめ」や「かんざつ」のしかたや新ノートに文や図をま

学年ごとに自主学習の具体を例示したり、教科ごとに復習や予習の内容を発信しているので、家庭の支援が受けやすくなっています。

家庭学習の手引き

中学生はこんな時期です

1・2年生 いわゆる「思春期」(大人への入り口)といわれる時期です

- 心身の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを覚えやすくなります
- 家族に依存したいという気持ちと、家族から独立したいという気持ちが見られます
- 矛盾する自分の感情に反感的になります
- 他人からみた自分を意識し、他人と比べて落ち込みたり、無理にあおせようとしがちです
- 人の役に立ち、地域社会に貢献することで、大きく自尊心が育ちます

3年生 進路に関する情報が不足していると、不安が募ります

- 「やらなくてはいけなくていいながら、思わぬようにならない自分で立ち回れるようになることがあります
- 1・2年生に比べ気持ちの安定がみられ、開りを意識して行動するようになります
- 開りを意識する分、開りの状況に過敏になり、ときには反発することがあります

学習習慣を家庭学習に活かす

学習内容の特色

総合的な学習の時間が残り教科の時間が減りました
基礎的な知識・技能をしっかりと身につけます
知識・技能を応用し、自ら考え、判断し表現する力を伸ばします
学習に取り組む姿勢を養い、1・2年生に比べてより深く考え、5回に開わりながら思考を深め、自ら成長していく姿を目指します

学びの姿勢大切

朝食は必ずする!
睡眠時間はたっぷりとり!
計画的に時間を使う!
挨拶や会話を大切に!
家の手伝いをする!

家庭学習の習慣づくりのポイント

- 決まった時刻に机に向かう
- 「家庭学習時間のめやす」を参考に学習時間を決める
- テレビやパソコン、ゲームなどの時間を決めて、学習中は電源を切っておく
- 机の上には学習用具だけを置く
- 1日を振り返って、「生活記録」を書く
- 前日に次の日の学校の準備をする
- 毎日の宿題と各教科の自主学習(予習)に努力しよう

家庭学習

こんな内容・方法で

国語

- 授業の予習
 - 教科書の本文を「読む」、学習が終わるまでに何回も読む。
 - 意味や読み方がわからない語句を辞典で調べる。
- 授業の復習
 - ワークをする。まず、自分で考えてから答え合わせをする。
 - 記述式の問題は時間をかけて考える。
 - 漢字は「書き方」と「読み方」をセットで練習する。
- 教科書・ノートで授業内容を確認する
- 学習計画書をもとに予習課題にとりくむ
- ワークを使って学習した内容を復習する
- わからない語句は、地図帳で調べる
- 語句や地名、人名などは必ず書きながら覚える
- 授業の予習をする(授業で1回目の復習ができる)
- 次の時間に学習する内容を教科書を使って予習しておく
- アンダーラインを引く
- 教科書の内容をノートにまとめてみる
- できそうであれば練習問題に取り組み

数学

- 授業の復習をする(宿題で2度目の復習ができる)(ワークの取り組み)
- 宿題は復習である、出された問題はその日のうちにやってみよう

理科

- 「たのしい理科の学習」と「単元プリント」をやってみよう
- 授業のワークシートや教科書を使い、確認しながら進めよう
- 分からない問題や間違えた問題は、解説などをじっくり読んで理解を求めよう
- 解説を読んでも分からない問題は、そのままにしないで、友達や先生に教えてもらいましょう
- 書籍2冊以上やりましょう。間違えた問題を印をしておくと2回目以降に役立ちます

英語

- 授業の予習をする
 - ノートに新出単語の意味調べをして、本文を書き写す。(辞書を使う)
- 授業の復習をする
 - 習った単語を使って文が書けるように毎日練習する。本文を声に出して読む。ワークやプリントで問題練習をする。
 - 英語書籍や音楽、映画など英語に親しむ機会を多く持とう

家庭学習時間のめやす(熟などの時間を除く)

1年生	70分	2年生	90分	3年生	120分
-----	-----	-----	-----	-----	------

5 学校全体での取組

家庭学習は、学校での学習内容や進度、時期に応じて学級担任や教科担任が設定するため、教師によって量や内容に差が生じることがあります。その差が大きくなると、児童生徒や保護者の不安や不信感につながる場合があります。特に、中学校では、定期テスト前や学期末に複数の教科から同時に課題が提示されるので、その量が膨大になってしまうことも考えられます。

学級・学年間や教科間の連絡を密にし、児童生徒への過度な負担を避け、適切な指導につなげるためには、学校全体で情報共有を行うことが不可欠です。

(1) 情報共有

- ・年度初めに学校全体や学年団、教科会等で確認し、ある程度共通した取組を行うことで、教師が変わっても児童生徒が安心して取り組むことができます。
 [共通して取り組むことが望ましい内容]
 - 内容、量、時間の目安
 - 点検・評価の方法
 - 学習計画表の作成・取扱い
 - 週休日や長期休業中の家庭学習の取扱い
 - 未提出者への対応 等
- ・「全国学力・学習状況調査」や生活アンケート等を参考に、児童生徒の実状や課題・成果を整理しましょう。
- ・中学校では、定期テスト（特に学期末テスト）前の課題が通常より煩雑・膨大になることがあります。事前に学年団で確認したり、学級担任が把握して教科担任との連携を図ったりすることが大切です。

実践例 小学校 「音読カードを活用した宿題記録表」

学年や実態に応じた様式に修正して活用することも効果的です。大切なのは、学年で統一したり、低・中・高学年で段階的に提示したりするなど、児童や保護者が6年間の見通しを持つことができるようにすることです。

3月 名前

宿題パワーアップ記録表

①漢字練習②計算練習③読書④視写⑤意味調べ⑥リコーダー練習⑦調べ学習⑧その他
 テレビを見たり、ゲームをしたりした時間は双方向の矢印を書きましょう。

日	曜日	音読 (たいへんよい◎ だいたいよい○)					家庭学習の記録 (取り組んだ時間に色をぬって番号を書きましょう。)						家の人のサイン	先生のサイン		
		はつきりした発音で読めた	すらすら読めた	速さに気をつけて読んだ	気持ちをこめて読んだ	間の取り方に気をつけて	16時 (休日)8時	17時 10時	18時 12時	19時 14時	20時 16時	21時 18時			22時 20時	
1日	金															
2日	土															
3日	日															
4日	月															

自己評価の内容を学年ごとに設定しています。
 (例：第5学年)

実践例 **中学校** 「定期テスト学習計画表」

課題提出日までに、学級担任が一人一人の進捗状況を把握することで、計画的に進められるよう働きかけたり、教科担任と連携を図って支援したりすることができます。

2学期 期末テスト 塗りつぶし学習実行表

2年 組 番 名前()

家庭学習の取り組み目標

自分の決意！(なるべく具体的に)

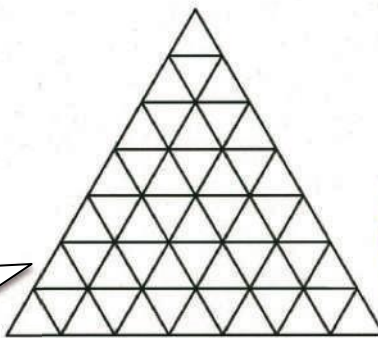
- やり方
- ① テスト勉強の計画を立て、勉強したマスをマーカーペンで塗ります。
 - ② どれぐらい自信があるか、「◎・△・×」を書きます。自信がない所は、本番までにやり直そう
 ここはバッチリ！(〇)・・・・◎ 一通りできた(△)・・・△ 自信がない(×)・・・×
 - ③ テストまでに、×→△→◎となるように繰り返し取り組み、自信をもってテストを受けられるように準備しておきましょう。

英語	10/12 1限	理科	10/12 2限	国語	10/12 3限	数学	10/13 1限	社会	10/13 2限
例)めきめき P.19-21	○ 10月2日	例)たの理科 P.6-8	◎ 10月2日	例)漢字ノート P.13-15	△ 10月2日	例)問題ノート P.23-24	△ 10月2日	例)ワーク P.25-27	○ 10月2日
めきめき P53-54	10月2日	たの理科 P2-3	10月2日	漢字ノート P30-33	10月2日	問題ノート P36-39	10月2日	ワーク P2	10月2日
めきめき P55-56	10月3日	たの理科 P4-5	10月3日	漢字ノート P34-37	10月3日	問題ノート P40-43	10月3日	ワーク P3	10月3日
めきめき P57-58	10月4日	たの理科 P6-7	10月4日	漢字ノート P38-41	10月4日	問題ノート P44-47	10月4日	ワーク P4	10月4日

計画的な取組を促すため、課題に取り組む期日の目安を明記しています。

児童生徒が達成感を味わうことができるよう、取組を可視化しています。

テスト勉強頑張りピラミッド



30分勉強したら1マス、ペンで色をぬっていき、鮮やかなピラミッドを完成させよう！

2年 組 番 名前()

毎日の勉強時間 ① 一日ごとの勉強時間を、教科ごとに書きます。

記録表 ② 最後に合計します。

日付	国語	理科	社会	英語	数学	合計
10月2日(月)	分	分	分	分	分	分
10月3日(火)	分	分	分	分	分	分
10月4日(水)	分	分	分	分	分	分
10月5日(木)	分	分	分	分	分	分

(2) 環境整備

家庭学習の内容や提出日の一覧を、教室や廊下、職員室等に掲示し、情報を共有することで、学級担任や教科担当が連携を図ることができます。各市町村及び中学校区等で作成している「家庭学習の手引き」等を活用することも、家庭学習に関わる取組やルールを統一することにつながります。また、学級・学年通信等で保護者に情報提供を行い、理解・協力を得ることも重要です。

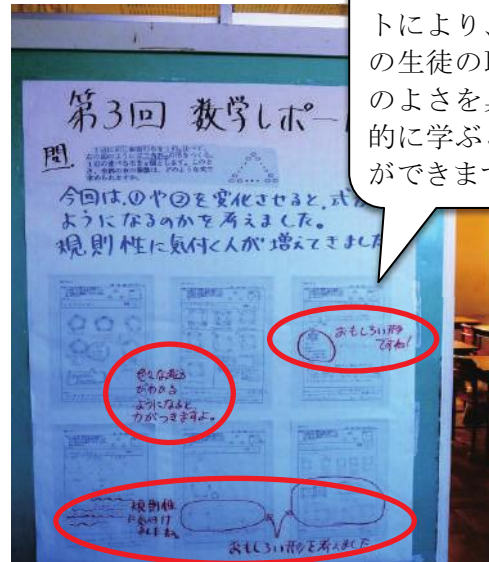
実践例 **小学校** **中学校** 「環境整備」

○家庭学習課題一覧表



中学校では教科間の情報を可視化するため、翌日の予定と課題一覧表を区別しておくとう便利です。

○教師のコメント掲載



教師のコメントにより、他の生徒の取組のよさを具体的に学ぶことができます。

○他学年や保護者への情報発信



校内掲示することで、学年間の情報交換や保護者への啓発につなげることができます。また、小学校で中学校の見本を掲示することで、より発展的な取組を喚起することができます。



チェックリスト

<p>課題設定 及び指導</p>	<p><input type="checkbox"/>家庭学習の意義を伝えたり、話し合ったりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭学習の内容を具体的に提示している。</p> <p><input type="checkbox"/>答えを丸写しにしたり作業的になったりしないように工夫・指導をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>探究的・発展的な内容に取り組むような工夫・指導をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>習熟度によって内容を選択できるよう工夫している。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭生活や地域の行事を関連付けたり、活用したりできる内容を設定している。</p> <p><input type="checkbox"/>押印や丸付けだけではなく、コメントを返して児童生徒の意欲を喚起している。</p>
<p>授業づくり</p>	<p><input type="checkbox"/>1時間ごとに授業のゴールを明確化し、めあて、まとめ・振り返りを提示している。</p> <p><input type="checkbox"/>授業の導入、まとめ・振り返りを家庭学習と関連付けている。</p> <p><input type="checkbox"/>テスト対策やテスト直しを家庭学習と関連付けている。</p> <p><input type="checkbox"/>学級や教科で図書館を利用している。</p> <p><input type="checkbox"/>通信や掲示、教師の話の中で、授業に即した図書を紹介している。</p> <p><input type="checkbox"/>通信や掲示、教師の話の中で、新聞や辞書の活用を喚起している。</p>
<p>自己管理</p>	<p><input type="checkbox"/>家庭学習について教師の思いを伝えたり児童生徒の意見を聞いたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭学習や生活習慣について、児童生徒がP D C Aを行う場を設定している。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭学習や生活習慣について、班や学級で話し合う時間を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>連絡帳・学習計画表・テスト計画表などを工夫・活用している。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭に向けて、手引きや通信等で家庭学習の啓発を行っている。</p>
<p>学校全体</p>	<p><input type="checkbox"/>家庭学習について全職員で話し合う機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭学習について学年会や教科会で話し合う機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭学習について話し合う際、全国学力・学習状況調査や生活アンケート等を活用している。</p> <p><input type="checkbox"/>課題の内容や締切について、教室や廊下に掲示するなど可視化している。</p> <p><input type="checkbox"/>【小学校】国語や算数に偏らないよう教科のバランスをとっている。</p> <p><input type="checkbox"/>【中学校】定期テスト前に教科間で課題の量や内容を調整している。</p> <p><input type="checkbox"/>【中学校】担任が全教科の課題の量や内容を把握している。</p>

第4章

同僚性の構築に向けた取組

第4章 同僚性の構築に向けた取組

児童生徒の確かな学力を育むためには、すべての教職員が一丸となって組織的に取り組む必要があります。そのためには、教職員一人一人が学校の課題を意識して、主体的に教育活動を実践していくことが重要です。全教職員が役割に応じて力を発揮するとともに、学校全体で取組を共有することによって、児童生徒の成長につなげることができます。

1 気持ちのそろった教職員集団づくり

教職員集団にまとまりがなければ、学校はうまく機能していきません。学校づくりの根幹は、まとまりのある教職員集団をいかにつくりあげるかという点であるといえます。

「子どもたちのためにできることをみんなでやろう」という思いの共有（「気持ちのそろった教職員集団づくり」）が、学校づくりの出発点となります。

（1）チーム力を引き出すリーダーシップ

教職員集団のチーム力を十二分に発揮させるためには、柔軟かつ強固なリーダーシップが大切です。学校におけるリーダーシップの担い手には、次のようなものがあります。

- ◆ 校長のリーダーシップ
- ◆ 校長とパートナーを組む副校長・教頭のリーダーシップ
- ◆ 教育活動推進の要となる中堅教員等、いわゆる「ミドルリーダー」のリーダーシップ
- ◆ 分掌やチーム内における教職員のリーダーシップ

校長のリーダーシップが最も重要であることはいうまでもありませんが、上記の4つの項目は学校組織を活性化する上で、それぞれに重要な役割を担っています。

教職員集団をやる気にさせるのがリーダーの役割であり、校長、副校長・教頭と、教職員集団をとりまとめるミドルリーダーとの連携が大きな力を生み出します。

<管理職の役割>

組織を活性化するためには、管理職による組織運営体制づくりや人員の配置など、積極的な仕掛け・仕組みづくりが大切です。また、多くの教職員が、業務に対する支援的な言葉かけを期待しています。開かれた学校づくりのために、地域との連携を図ることも必要です。

（取組の例）

- 学校の方針（ビジョン）を明確に示し、すべての教職員の参画意識を高める
- 教職員が安心して仕事を進められるように、支援的な言葉かけを行う
- 学校の重点目標や、具体的な取組を発信する
- 積極的に校外へ出かけ、保護者や地域との交流を図る

<ミドルリーダーの役割>

各学年、各校務分掌のパイプ役として連絡調整を行うことが求められます。学校の抱える様々な課題の解決に向けて果たす役割も極めて大きいものがあります。また、若手教職員の育成という点からも、リーダーシップを発揮することが期待されます。

（取組の例）

- 学校運営について自分の意見を持ち、柔軟な発想で、推進案や企画等を提案する
- 学年や各校務分掌などのチーム間をつなぐ役目を意図的に行う
- 職場内外のコミュニケーションの活性化に努める
- 若手教職員に助言したり、相談に乗ったりする

(2) 信頼感に基づくチームワーク

個々の教職員の経験には差があり、それぞれの考え方や持ち味も多様です。それらをいかに結集させ、まとまった力を生み出す形にもっていかけるかが重要です。

例えば「一人で抱え込まないで、みんなで見ていこう」というスタンスは、様々な学校で共通してみられるものですが、このようなチームワークは、一朝一夕に築き上げられるものではありません。その背後にあるのは、日々の関わりの中で培っていく教職員相互の信頼関係にあります。直面する課題を克服するため教職員が本音でぶつかり合うことが大切であり、その結果として結束が固くなりチームワークが育つのです。

実践例 **中学校**

すべてはチームから始まる ～協働的な学校文化の創造～

この中学校では、学校教育目標の実現に向けて教科会と各分掌の活性化に取り組んでいます。教職員のアイデアを引き出し、つなげて形にするアクティブプランの作成が、全教職員の協働を生み出しています。

各チームによるアクティブプランの作成



各チームの取組例

- 規範づくり部
凡事徹底
- 学びづくり部
□□中スタンダード
- 人間関係づくり部
生徒会による小学校への出張劇
- 健康づくり部
ドアをノックふれあい週間
グッスリ・スッキリ・ガッツリ大作戦

チーム発のプランを全校で共通実践



教師自ら設定した評価基準を達成する充実感は、さらなる挑戦に向かう原動力となります。一人一人の教師が主役となり、協働的な学校文化を創り出すことで、学校全体に生き生きとした空気を吹き込んでいます。こうした教師の取組は、生徒の主体的・協働的な学びの実現にもつながります。

(3) 学び合い育ち合う同僚性

教職員間が良好な雰囲気の中では、自由な形の学び合いが生まれます。例えば、若い教員が素直に「先輩のようになりたい」といえるような「同僚性」を築き上げることが重要です。

増加している若い教職員を「どう育てるか」ということは重要な課題です。教職員の大量採用の時期を迎える今、同僚性の構築が求められています。

<子どもたちとともに歩み、学び続ける教師>

新たな課題へ対応するためには、教職員一人一人が、絶えず学び続け、実践的指導力等を高める必要があります。自分から進んで、先輩、同僚、書籍等から学ぶ機会をつくり、実践することにより、授業力等を高めていきましょう。

特に若手のうちは、以下のようなことを意識して、教師としての基盤を固めましょう。エキスパート教員授業公開も積極的に参観するとよいですね。

- 自分の授業を参観してもらい、アドバイスを求める。
- 先輩の授業を積極的に参観する。
- 研修で学んだことを校内に持ち帰り、伝達する。



「学び続ける教員像」の確立

教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠である。(平成24年8月中央教育審議会答申)

2 戦略的で柔軟な学校運営

教職員集団がそのチーム力を発揮し、各教職員が力を伸ばしている学校では、目標の達成に向けて、その力を発揮させる仕組みがあり、またその仕組みを活用する計画が練られています。

(1) ビジョンと目標の共有

学校としての一貫した指導を進めるためには、学校の目指す姿（ビジョン）を表す「学校目標」と、子どもたちの実態把握等による生徒指導面や学力向上面などの教育課題をもとに、校長や副校長・教頭などのリーダーが「具体的な目標」を明確に示すとともに、教職員集団に共有されていることが必要です。

<ビジョンと目標が共有されるためのポイント>

- ◇目標が将来の成果を見通して吟味されたものとして、各学年・各教科担当等に示されていること
- ◇目標が各教職員の日々の実践にすぐに結びつけられるように深く理解されていること
- ◇目標に係る取組の内容や方法について、将来の見通しを持った共有が図られていること
- ◇目標が、子どもたちの現状や課題、保護者・地域の要望等を把握して、学校として組織的に集約されたものであること
- ◇取組の状況や今後の見通しについての情報の共有が、系統的に円滑に進められていること

<グランドデザイン>

学校のグランドデザインとは

学校教育目標を達成するための「学校教育全体構想図」のことです。

グランドデザインには、どのような内容が盛り込まれるのか

新学習指導要領の考え方を踏まえて以下のような内容が考えられます。

- 学校教育目標と〇〇年度重点目標
- 何が身に付いているのか
- 何ができるようになるか
- 何を学ぶか
- どのように学ぶか
- 子どもの発達をどのように支援するか
- 実施するために何が必要か

学校のグランドデザインは、誰がつくるのか

「学校の教職員全員」でつくることが望ましいと言えます。

すべての教職員が作成に携わることで、学校の役割に関する認識や学校の取組の方向性を共有することになり、1年を通じて、教職員全員で教育活動の改善・充実を図っていくことにつながります。

グランドデザイン作成の手順

グランドデザインの作成手順は、学校の実態に合わせて、学校ごとに工夫することになりますが、ここでは、その一例を示します。

①校長によるグランドデザイン作成指示



②企画会議（構成員：全教職員を代表する教職員）の開催

- ▷グランドデザインの構成（盛り込む内容等）の検討
- ▷学校の強み（資源）の把握
- ▷情報の収集（児童生徒の実態、保護者や地域の願いや要望等）
- ▷課題の焦点化
- ▷学校教育目標・重点目標の検討



③校長による「学校教育目標・重点目標」の決定



④グループ会議（全教職員参加→いくつかのグループに分かれる）の開催

- ▷具体的な取組を検討



⑤企画会議の開催

- ▷グループ会議で出された具体的な取組を分析、整理
- ▷グランドデザインの原案の作成



⑥校長による「グランドデザイン」の決定



⑦校長による「グランドデザイン」の全教職員への提示

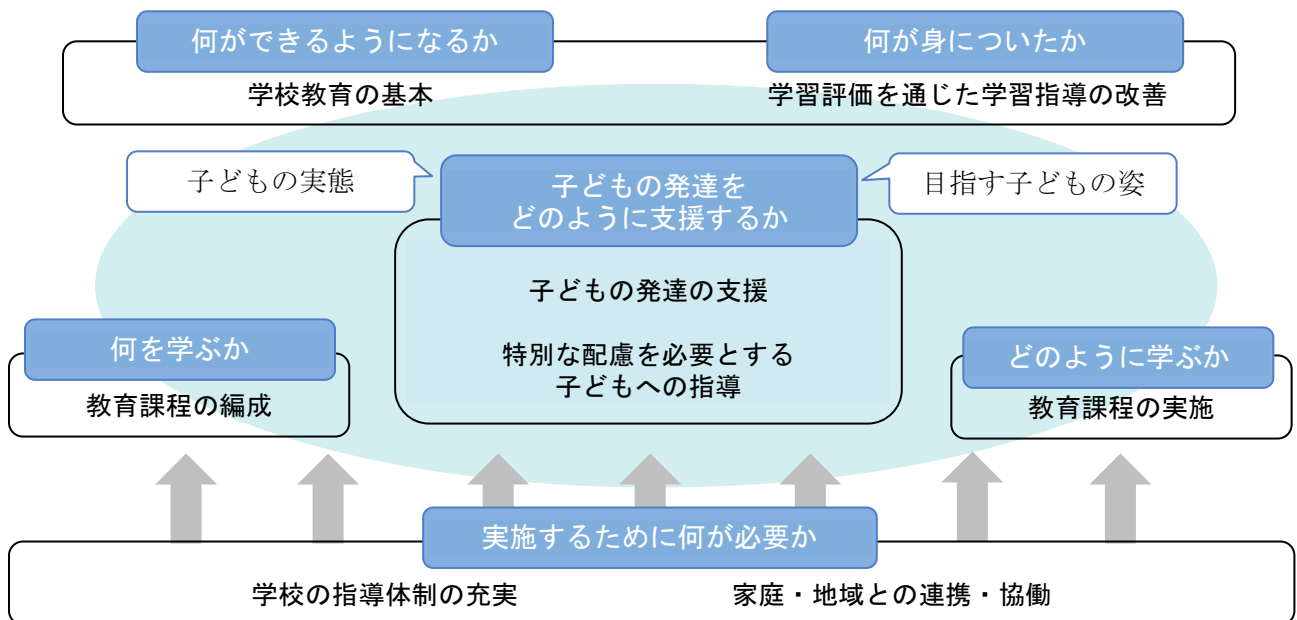
- ▷全教職員の共通理解

(2) カリキュラム・マネジメント

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子どもの心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成主体は各学校です。各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められます。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」です。

教育課程全体を通じた取組を通じて、教科等横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていくことが求められます。各学校が編成する教育課程を軸に、教育活動や学校経営などの学校の全体的な在り方をどのように改善していくのかが重要になります。

<カリキュラム・マネジメントのイメージ>



<カリキュラム・マネジメントの3つの側面>

カリキュラム・デザインの側面

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育の内容を**組織的に配列**していくこと。

PDCAサイクルの側面

教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の**PDCAサイクルを確立**すること。

内外リソース活用の側面

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、**地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせ**ること。

※次ページ以降では、一つ目の側面として掲げている「カリキュラム・デザインの側面」について示します。

(『カリキュラム・マネジメント入門』東洋館出版社)を参考にしています。)

《カリキュラム・デザインの3つの階層》

①全体計画の作成 ⇒ ②単元配列表の作成 ⇒ ③単元計画の作成

① 全体計画の作成

学校の教育活動全体を視野に入れ、52ページのグランドデザイン作成手順例で全体計画を描きます。

② 単元配列表の作成

各教科等で行われる一つ一つの単元が、1年間でどのように実施されるのかを俯瞰する単元配列表を作成することが考えられます。

一人の子どもの学びは、個別の教科内で閉じるものではなく、それぞれの学びが相互に関連付き、つながり合っているはずで、子どもは、国語科も算数（数学科）科も、音楽科も体育（保健体育）科も、総合的な学習の時間も学んでいくのです。そうした一人の子どもの中で、学んだことがどのように関連付いていくのかを意識する上でも、一年間のすべての単元を配列し、それを俯瞰することのできる単元配列表の作成は、極めて重要なカリキュラム・デザインの作業となります。

例えば、次のような学びを意識します

- ▷理科の授業で算数科（数学科）の統計に関する学習が有効に働く
- ▷国語科で学んだ話し合いの方法を使って社会科の問題を議論する

こうした学びこそが、資質・能力の活用・発揮の場面であり、「深い学び」を実現することになると考えられます。

単元配列表作成のポイント

- ▷各教科等の各単元が、どのように配列されることが子どもの学びにとって望ましいのかを考える。
- ▷それぞれの単元の「育成を目指す資質・能力」を踏まえて、どの時期に実施するのかを考える。
- ▷各教科等間でどのような関連が考えられるのかを視野に入れる。

＜1年間を見通した単元配列表（例：総合的な学習の時間を中核とした場合）＞

各教科等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元⑧	単元n		
社会	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元n			
数学	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元n			
理科	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元n			
英語	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元n			
総合的な学習の時間	単元①		単元をつなぐ				単元②		次年度につなぐ			
美術	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元n			
音楽	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元n			
保健体育	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元⑧	単元n		
技術・家庭	単元①	単元②	単元③	単元④	単元⑤	単元⑥	単元⑦	単元⑧	単元n		
道徳	時間①	時間②	時間③	時間④	時間⑤	時間⑥	時間⑦	時間⑧	時間n		
特別活動	活動①	活動②	活動③	活動④	活動⑤	活動⑥	活動⑦	活動⑧	活動n		

体験と言語をつなぐ

教科等をつなぐ

③ 単元計画の作成

単元とは、一連の問題解決のまとまりを意味します。

「主体的・対話的で深い学び」を実現しようとするれば、単位時間の授業のみならず、単元がつながりのある連続したプロセスとして具体化していることが大切になるはずです。

単元の中の学びのプロセスの例

- ☆問題解決のプロセス
- ☆解釈し形成するプロセス
- ☆構想し創造するプロセス

子どもの学びのプロセスを意識して構成された単元では、学び手の子どもは主体的になり、そこでは他者との学び合いも生まれ、学びの連続によって「深い学び」も実現できるものと考えられます。

そのためにも、子どもの興味・関心と教師の願いとを丁寧に擦り合わせ、そこに生まれる教材や学習対象、学習活動を用意することが欠かせません。

<単元ごとの指導計画の項目例（一部抜粋）>

- 1 育成する資質・能力（この単元の学習で身に付けさせるべき資質・能力を記述する。）
- 2 単元の評価規準（単元の学習内容に合わせて、具体的な評価規準を設定する。）

知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	主体的に学習に取り組む態度

3 評価計画

		具体的評価規準と評価方法	学習活動
第一次	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の評価規準に基づき、各学習のまとまりで行う評価規準を具体的に記述する。 ● 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、学習の最終段階で行うよう留意する。 ● 「思考力・表現力・判断力等」を評価するところは言語活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎時間の児童生徒の具体的な学習活動を記述する。 ● 学習のまとまりを整理して、単元全体の学習がどのように整理されているか分かるように記述する。
第二次	3 ・ 4 ・ 5		
第三次	6 ・ 7		

単元全体で、単元の評価規準に示された規準が達成されるように計画を立てることが重要です。



(3) 柔軟で機動性に富んだ組織力

ビジョンや目標を適切に設定したとしても、取組を進める過程で新たな課題が出てくる場合があります。そうした事態が生じたとしても、それを見越した柔軟な組織づくりや、様々な課題に即座に対応できる機動性があれば、共有されたビジョンや目標のもとで、多少の修正はあっても基本的な方向を見失わずに実践が進められます。

綿密に組織された指導体制を構築する場合や、各教員が個性を生かした実践をすることを方針とするような緩やかな体制をとる等、様々な取組方がありますが、いずれにしても学校としての一貫した指導方針が保たれ、ブレがなければ学校の組織力は発揮されるのです。

実践例 中学校

「教員の意欲を喚起するプロジェクトチーム（PT）の結成による対応」

状況

A中学校は、市の中心部に位置する中規模校。これまで学力調査の結果は、県内でも低位であったが、学力向上策を打ち出して取組を進めてきたこともあり、知識・技能に関わる学力は向上してきている。

しかしその一方で、「学習意欲や態度」「問題を発見し考える力」「表現力・行動する力」などの育成に関する生徒主体の教育活動の改善は後回しになっており、授業に参加する生徒の様子からは、受け身の姿勢が強くなっている。

①学校評価の再分析と教育活動の点検

学力を総合的・広義に捉え直し、学校評価の再分析、現在の教育活動の点検により課題の洗い出しを行う。

②ボトムアップの方法による新しい組織の活用

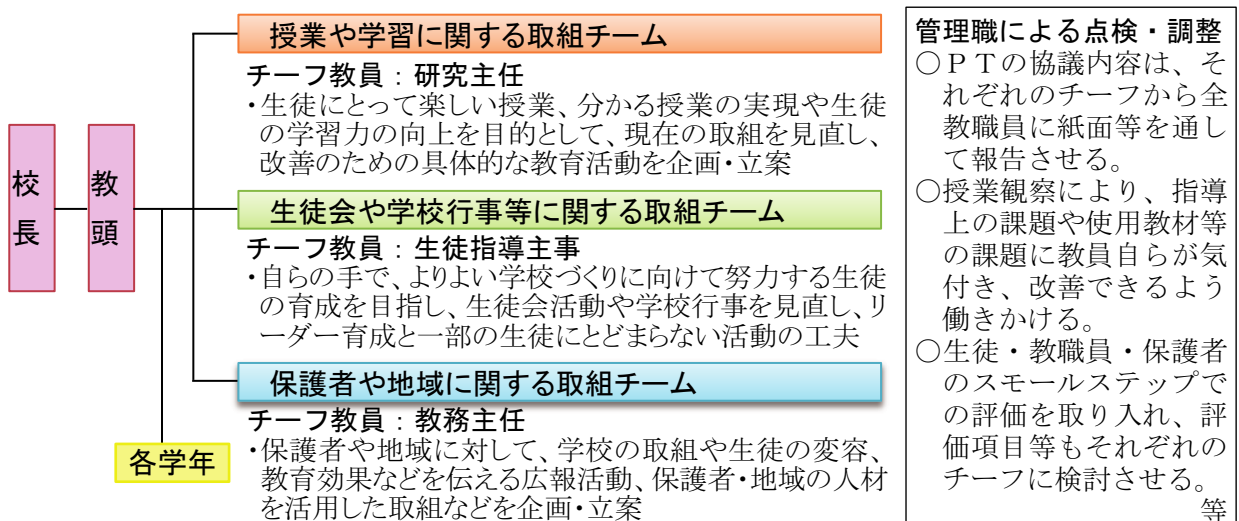
新プロジェクトチームを立ち上げ、「授業や学習に関する取組」「生徒会や学校行事等に関する取組」「保護者や地域に関する取組」の視点から、新たな教育活動の企画・立案を行う。

③新たな教育活動の展開

活力に満ちた学校の姿、生き生きと主体的に活動する生徒像を明確にし、プロジェクトのチーフ教員を核にして、新たな教育活動を推進する。

④新しい教育活動の検証を核にした学校運営の改善

スモールステップでの評価を取り入れながら、学校運営の改善を図る。



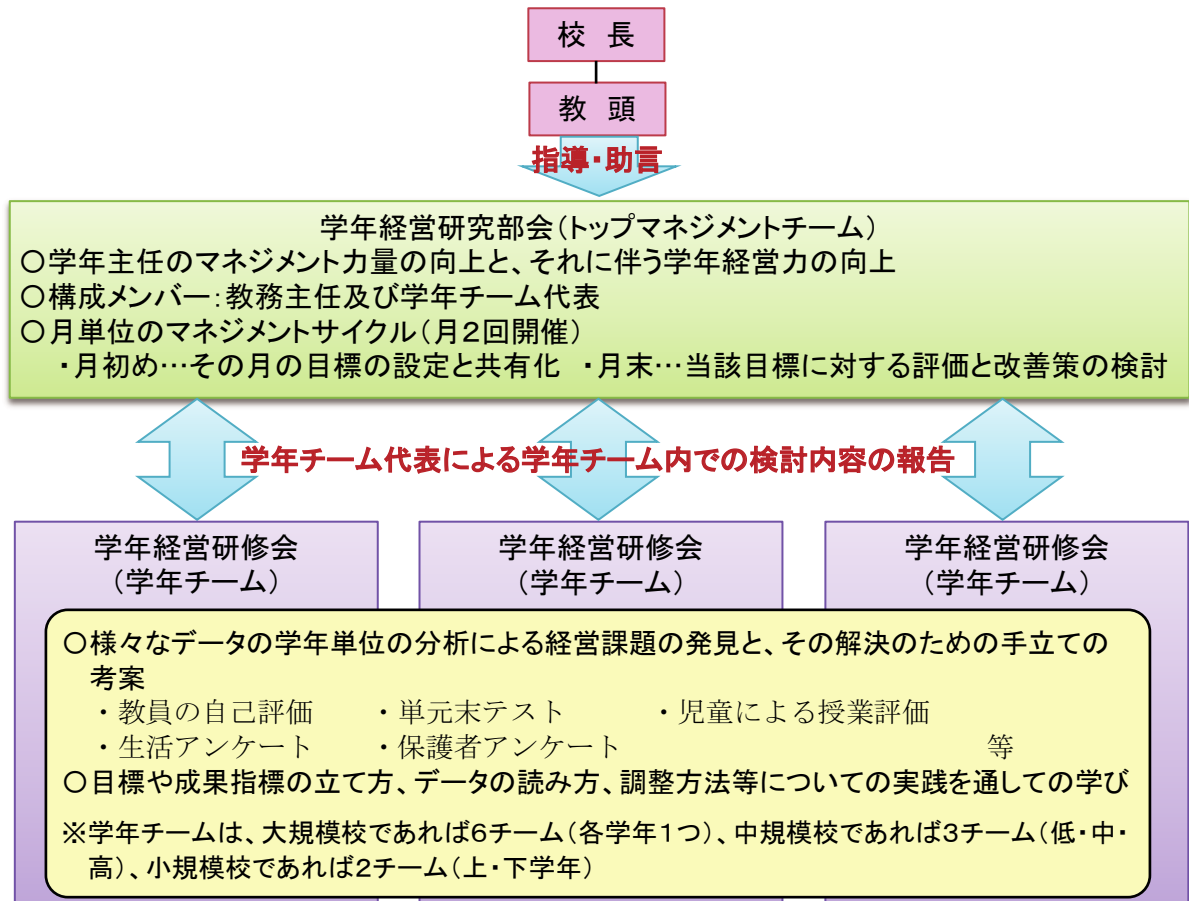
実践例 **小学校**

「学年チームを中核とした分散型組織による対応」

状況

B小学校は、山間部に位置する中規模校で自然の多い学区である。地域住民の多くが卒業生であることから学校の取組には協力的で、苦情を持ち込む保護者はめったにいない。

学校組織については、これまでは校長のリーダーシップにより、組織目標の達成に向けた努力レベルの向上や危機管理において一定の成果を上げてきてはいるものの、教員の側からの発案の具体化が十分図られていないことや決定への参加が抑制されてきたことから教員のモチベーションの低下が見られる。



統制型組織を補完する分散型組織

統制型組織は、組織目標の達成に向けた努力レベルの向上や危機管理において効果を発揮しますが、ラインの強調は、教員の側からの発案が具体化するまでに時間を要してしまうこと、トップの異動による影響を受けやすいこと、決定への参加抑制に伴い教員のモチベーションが低下することなどの課題も内包しています。

統制型組織の限界性を補完するうえで有効なのが「分散型組織」です。

「分散型組織」は、統制型組織の仕組みがある程度浸透し、ラインがスムーズに通っている学校において、学年組織等の最小単位チームへの権限・裁量付与という形で実践されます。校長は管理職及びミドル層教員からトップマネジメントチームを編成し、中長期的な目標達成のためにPDCAを、短期的な問題解決のためにWHDC A (What-How-Do-Check-Action) を機能させることとなります。

	統制型組織	分散型組織
組織構造	ライン	フラット
活動形態	統制	協働
サイクル	PDCA	WHDC A
目的	目標達成	問題解決
行動統制	役割行動	裁量行動
意思決定	校長	トップマネジメントチーム

3 校内研究の活性化

学力の向上のためには、多様な取組が学校全体で行われる必要があります。とりわけ「授業の在り方」が最重要で、日々の授業を大事にする意識や学校として学習方法に一貫した継続性のあることが大きな成果を生み出します。そのために大切な取組は、次のようなことがあります。

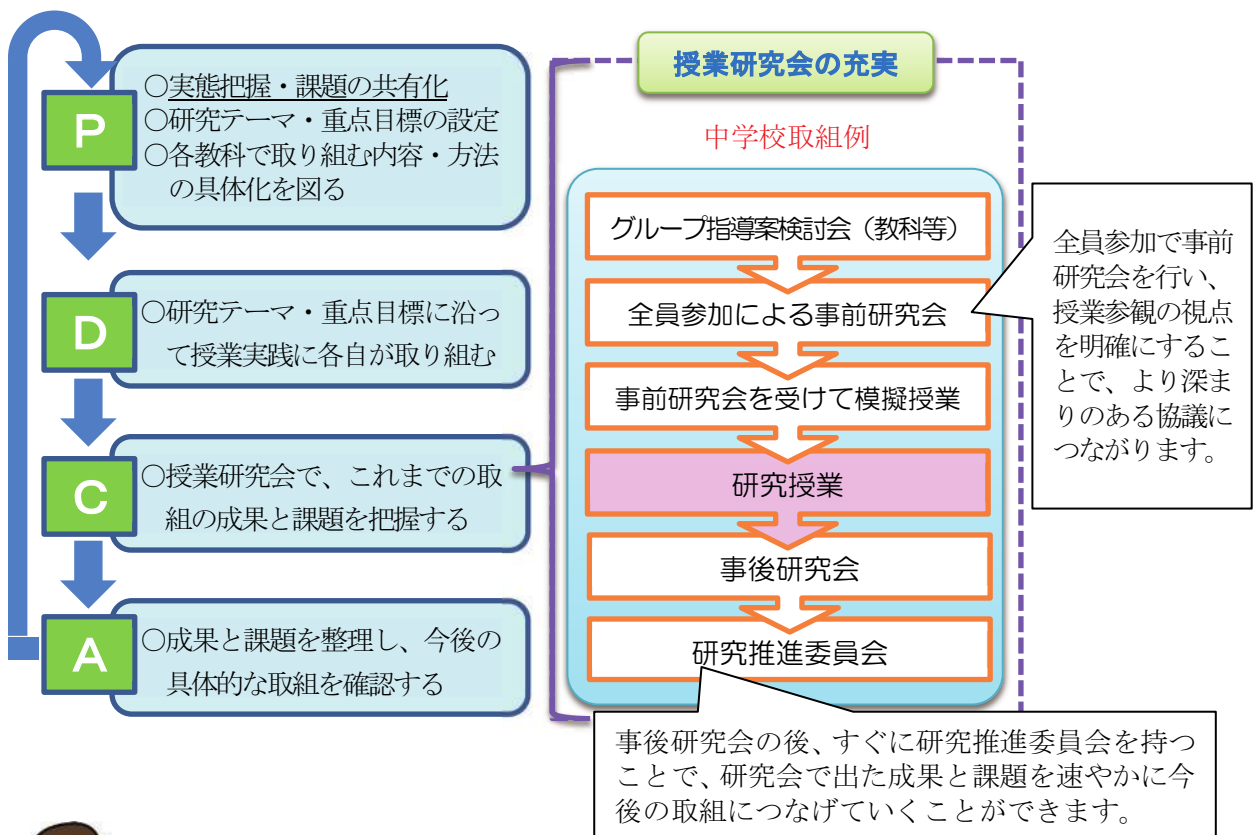
<「授業づくり」に対する教職員集団の意識や気運を高めること>

- ◇学習のまとめりごと、学期ごと、年度ごとの定期的な学力定着度の把握システムの構築
- ◇学年や学校としての、学力実態の分析と次学年への引継ぎ
- ◇職員会議や打ち合わせ等、日常的な学力定着度の交流

<校内研修の充実>

- ◇学力向上担当者の校務分掌への位置付け
- ◇日常的な公開授業の実施と相互の授業評価を取り入れた指導技術の向上
- ◇学力実態の分析結果に裏付けられた学校として一貫性のある学習指導方法の確立と検証の継続

<校内研究のPDCAサイクルを確立させましょう。>



「実態把握・課題の共有化」では、全国学力・学習状況調査等の結果を分析して、児童生徒の学力課題の共有化を図りましょう。

実践例 **中学校**

授業のUD化実現のための研究推進組織の確立

この中学校では、平成27年度から授業のユニバーサルデザイン（UD）化による学力向上の取組を進めてきました。この取組を進める上で鍵となっているのが、メンターチーム、教科会を柱とした研究推進組織の確立です。研究推進組織の確立により、40名を超えるすべての教員の研究への参画を実現しています。

〇〇中学校の研究推進の構造図

「教科会」を主体とした授業づくり

◆校内授業研究会、教科授業研究会において

- ・学習指導案の共同作成

◆1人1回公開授業において

- ・学習指導案の相互点検

ポイント 教科の本質にせまるUD授業を目指すことができる



「メンターチーム」による授業評価

◆校内授業研究会において

- ・メンターチームによるグループ協議

◆教科授業研究会、1人1回公開授業において

- ・メンターチームメンバーの授業を参観及び評価

この中学校におけるメンターチームは、

- ・1チーム5～6人
- ・ベテランと若手、そして様々な教科の教員が混在

ポイント 教科を越えてUD授業の視点で多角的に評価することができる



授業のUD化

「わかった」「できた」が実感できる授業づくり



校内（全体）授業研究会では、グループでの協議をメンターチームごとに行う。



校内研究推進において重要となるのが「共通理解」と「共通実践」ですが、その実現の難しさについてもよく話題に上ります。この難しさを組織の在り方、研究の進め方で解決しようとしたのがこの中学校の取組です。教員一人一人が研究推進組織の一員として明確な役割を担い、目指す授業に向かって取り組んでいます。このような取組によって、学校における同僚性の向上も期待できます。

実践例 中学校

全教職員で取り組む道徳教育

この中学校では、目指す生徒像を「自らの志(かくありたしの像)を語ることのできる生徒」と定め、道徳教育を学校教育推進の核として取り組んでいます。目指す生徒像の実現のために、教員が本気になって取り組む道徳授業が展開されています。

全教員で実践する道徳授業

◆全教員が全校生徒の担任という意識のもと、道徳授業は担任以外も含め全員が行う

週1回の授業検討会（道研）

◆火曜日に授業検討会（学年団＋教務団）→金曜日に実践 a n d 次週の資料(教材)の配布(共有)
※経験年数に関係なく、すべての教員が自信を持って授業に向かえる



人物に焦点を当てた道徳授業の充実

◆教員による人物教材作成（担任：年2回程度、担任外：年1回程度）
◆事前の模擬授業を経て実践



互いの授業を普段から参観

◆お互いに授業を見合い、改善点を指摘し合ったり、参考にし合ったりしている

道徳教育を学校教育推進の中心として、全教職員が全力で取り組むことで、教職員自身の意識が高まるとともに、「道徳の時間」の質も確実に向上します。

学校教育推進の核を一点に定めた取組は、教職員集団を一つにします。さらに、他の教育活動にも好影響をもたらし、新たな成果を生み出すことも期待できます。



チェックリスト

気持ちのそろった教職員集団づくり

- 校長の教育理念や学校運営についての考え方をすべての教職員が理解するための場が設定されている。
- すべての教職員が、自校の学校教育目標、目指す児童生徒像、目指す教員像を理解している。
- 各種主任は、学校教育目標の実現に向け、教育活動の提案や改善を行う等、リーダーシップを発揮している。
- 職員室の配置を工夫する等、教職員がコミュニケーションを図りやすい環境づくりがなされている。
- 授業づくりや学校の在り方等について、教職員同士で日常的に議論や意見交換が行われている。
- 学年主任、教科主任等を中心に、学級づくり、授業づくりについて、若手教員に対する具体的なアドバイスが日常的に行われている。

戦略的で柔軟な学校運営

- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ、学校評価アンケート等から自校の成果と課題を明確にし、教育目標の見直しを図っている。
- 教育目標の達成に向け、全教職員の参画によりグランドデザインの策定を行うとともに、目標達成に向けた教育活動の組織的配列を行っている。
- 喫緊の課題に対して即時対応できる組織になっている。

校内研究・研修の活性化

- 国の動向や自校の児童生徒の実態等を踏まえ、研究主任、教務主任、学年主任等が連携を図り、校内研究・研修の計画を立てている。
- 校内研究・研修会では、ファシリテーターによる工夫など、参加者が忌憚なく考えを出し合い、協力してそれらをまとめるといった協働のための雰囲気がつくられている。
- 校内研究・研修の内容について、ワークショップにおける成果物や研究だより等にまとめ、職員室に掲示したり、校外に発信したりするなど、内容の「可視化」が図られている。
- 研究・研修成果を日常の教育活動の中でどう活用するのかが明確になっており、全教職員にそのことが理解されている。
- 校内研究・研修会の実施後や学期末に評価を行い、改善点を次の研究・研修会に生かしている。

学力向上を支える基盤づくりに向けて

発行 鳥取県教育委員会

作成 鳥取県教育委員会事務局
小中学校課 東部教育局
中部教育局 西部教育局
教育センター

実践例等提供校

鳥取市立米里小学校	倉吉市立明倫小学校
倉吉市立上灘小学校	倉吉市立小鴨小学校
倉吉市立北谷小学校	倉吉市立高城小学校
倉吉市立社小学校	倉吉市立灘手小学校
湯梨浜町立泊小学校	三朝町立西小学校
北栄町立北条小学校	琴浦町立聖郷小学校
琴浦町立赤碕小学校	米子市立啓成小学校
米子市立福生東小学校	米子市立成実小学校
大山町立大山西小学校	大山町立大山小学校
江府町立江府小学校	鳥取市立南中学校
鳥取市立中ノ郷中学校	鳥取市立鹿野中学校
倉吉市立東中学校	倉吉市立久米中学校
倉吉市立河北中学校	湯梨浜町立北溟中学校
湯梨浜町立東郷中学校	北栄町立北条中学校
琴浦町立赤碕中学校	米子市立尚徳中学校
境港市立第三中学校	伯耆町立岸本中学校
大山町立大山中学校	
米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校	

平成30年3月

連絡先 鳥取県教育委員会事務局小中学校課
電話 0857-26-7935
ファクシミリ 0857-26-8170
掲載ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/272931.htm>

